

電線を切断したる八幡製鐵所構内の状況は七日も前日と異ならず正午頃には林立せる約五百本の電柱の三分の一は黒煙を吐き出し

る事あるまい云々（東京電話）

費は五六箇所を支出して二日間で全巻を休業させてお祭り騒ぎをやる事だと言ふ

七十有餘の各工場は大半機械の運轉を開始し居れり、されど出勤職工八千餘名の内其半數

は今朝各工場を分離して作業を分担するより過半数の者は他の工場に勤務を開始する毎に近

如きは運転を開始する毎に近づくより機関手は何れもこれを

運転を開始する毎に近づくより機関手は何れもこれを

電線其他危害なし

只スイッチを開きしのみ

更に多數警官の繰出

検事の急行と大活動

八幡製鐵所監工事件に關し既に三

百余名の警察官出動して慎重なる

警戒を加ふると共に一西側面を敷設

の疑ひあつた労友會員其他の検査に

活動しつゝあるが既に七日朝に至

り特務部員及び福岡警察署員百名

しらにちやうくわん

八幡製鐵所に於ける職工は要求五

倍の提案回答を七日午後六時まで

待つ事となりしが在京中の白仁

所長官は山本農相其他要路と

連絡の結果七日朝八時なる中川

宛に回答を急電せり、長官は

福岡省内製鐵所出張所に於て語る

「回答の電報は私から

申川長官代理から職工

に發表するに間に合つては出

來得る丈けの範囲にては出

來に於て多少の事に於て居る要求に

對しては承諾し得た條件もあり又

對しては未詮し得た條件もあり又

依然不穩の兆

百名二百名各所に集團

警保局より調査に出張



頭を斬れた勞友會

會員の憤慨と盲動

當局檢舉の苛酷を語る

日本勞動總同盟友愛社連會九州支部長木村第一氏は六日夜八

時半に就て岸の火災視る事

配せ参じたる神戸朝日新聞の夕刊を見て

住の大日本勞動總同盟友愛社連會九州支部長木村第一氏は六日夜八

時半に就て岸の火災視る事

決定する事にいたしましたが全職

工在此に出てたのは以前から

決して居つたものやうに活動を

始めた事を知りましたが私の責任

上に就て対岸の火災視る事

が出来ないので取扱友愛社連會九州

支那總會を開催して本會の態度を

上に就て対岸の火災視る事

が出來ないので取扱友愛社連會九州

支那總會を開催して本會の態度を

は依然不穩の兆

としている

ことは信じて居る

ことは信じて居る